

令和4年度第1回吹田市スポーツ推進計画（スポーツ施設整備方針）策定会議 会議概要

- 1 日 時 令和5年1月16日（月） 18時から19時30分
- 2 場 所 吹田市役所高層棟4階 特別会議室
- 3 出席委員 富山委員長、祐末副委員長、松井委員、下岡委員、孫田委員、山本委員、水谷委員、望月委員、村林委員、中野委員、林委員
- 4 欠席委員 前田委員
- 5 事務局 井田都市魅力部長、長井文化スポーツ推進室長、金参事、西田参事、大村主幹、浅田主査
- 6 議 題 (1) アンケート調査の結果について
(2) スポーツ推進計画 基本目標（案）について
(3) その他

7 議事概要

発言者	内容
委員長	お手元の次第に沿って議事を進める。次第1について、事務局から説明をお願いします。
事務局	【議題（1）アンケート調査の結果について】 <資料に基づき説明>
委員長	どこまでをスポーツとするかについては、国の調査と同じ定義で調査が行われたということによいのか。
事務局	その通り。
委員長	計画策定にあたり、どこまでをスポーツとするかというスポーツの定義付けが必要である。例えば、アンケート調査にある「日常生活の中で身体を動かす機会（階段利用や徒歩・電車移動等）を増やす」をスポーツと捉えるかどうか。国の方針としてはスポーツの定義をできる限り拡大しており、室伏長官も体が動けばそれがスポーツと言っている。スポーツ仕様に着替えて体育館に行く人を1000万人に増やすのは大変だが、日常的な活動の中で体を動かすことがスポーツや運動に入る、となっている。それがスポーツ実施者の構造化にも繋がっていると思う。 一方で、計画には施設整備の内容も入ってくるので、施設を利用して運動していただくための方策も必要である。ある程度スポーツの定義をした上

	<p>で、日常生活の中で体を動かしてもらうための施策、体育館を利用いただくための施策と分けて考えていくことがこの先必要になるのではないか。</p>
A 委員	<p>囲碁もスポーツであると聞いたことがある。体育館などの施設に来て運動してもらうのが望ましい。e スポーツなども流行っているので、どのように取り入れたらよいかはアンケート結果から見えるのではないか。</p>
B 委員	<p>資料5「計画の構成」1章の2に「本計画における「スポーツ」について」と、定義についての記載がある。</p>
事務局	<p>資料5は、今後素案を作っていく際に事務局側として考えている構成を提示したものである。第2章の「スポーツを取り巻く現状と課題」の「1. スポーツに関する社会動向」と「2. 吹田市における現状と課題」、第3章の「本計画の基本的な考え方」の「2. 基本目標」について今回御提示させていただく。本日御意見をいただいた上で、第1章と第3章の「1. 基本理念」の部分を次回御提示したいと考えている。特に基本理念においては、キャッチフレーズ等についてもヒントをいただきたいと思う。</p>
B 委員	<p>委員長もおっしゃった、スポーツの定義の広がりによって、議論の方向性や目標も変わってくる。施設などハード面のマネジメントについては実際に使ってもらうための議論。ソフト面ではDXのイベントの開催やDXを駆使してオンライン上で参加する仕組みづくりなどとなる。それぞれアプローチが異なるので、どこまで記載するかが悩ましい。</p> <p>例えば、e スポーツという媒体は障がいを持った方でも様々な方とコラボレーションして参加できるメディアの1つで、多くの可能性がある。民間のスポーツクラブはオンラインに移行しつつある時代である。ソフト面をどこまで書き込めるかである。</p>
事務局	<p>行政が想像もしていないような広がりが進んでいる。その中でどこまで盛り込めるかだと思うが、市が関わるべき部分については触れておきたい。10年スパンの計画であるため、細かい部分は明文化できない部分もあるが、方向性はこの計画で示したいと考えている。本日、議論いただいた上で次回御提示したいと思っている。</p>
B 委員	<p>資料2の14ページの施設の利用者数減少について、特に令和2年にコロナにより施設利用の傾向が変わっている。施設の利用者数を増やすほうに</p>

	舵を切るのか、オンライン対策にシフトチェンジして通用するような戦略を考えるのかで方向性が違う。両立も可能かもしれないが検討が必要である。
委員長	今御意見がでただけでも、アーバンスポーツから e スポーツまでカバーしているので幅広い定義になりそうだ。整理して記載することが重要である。
B 委員	DX と e スポーツを混同しているが似て非なるものである。e スポーツは、これまでフィジカルな空間で行っていたスポーツをサイバー空間に置き換え、ゲームとしての可能性だけでなく、参加できる人の可能性を広げることができるものである。世界中の人と家から繋がることができ色々な可能性を持った、スポーツというジャンルである。 DX は、コロナで参加できない人もオンライン上で参加できるなど、システムとしてのデジタル化による参画の話である。この 2 つは切り分けて考えるべきである。
委員長	e スポーツはゲーム的なもので、DX は自宅でオンラインレッスンを受けられるようなものということか。
B 委員	機材が大変で参加するにはハードルが高いというのをネットワークの力で参加できるということと、スポーツがデジタル化するというのは別の話である。
委員長	施設予約がスマホでできるというのは DX に該当するのか。
B 委員	DX の初歩的な内容である。
委員長	ゴーグルをかけてまちを走るなどは DX に該当するのか。
B 委員	そうなる。ポケモン GO などをゲーミフィケーションというのだが、ゲームの中でスポーツを行い、デジタル空間でフィジカルな空間を繋いでいくというのは DX の一つである。
委員長	そのあたりも、10 年先を見据えて今後どのように取り組んでいくかである。

B 委員	吹田市としてソフト面の提供をどれだけ考えるかである。ハード面としての施設や利用者促進について、ソフト面の提供についてどのような構想があるのかが気になる。
副委員長	<p>スポーツの定義もだが、どの層をターゲットにするのかが見えてこない。他市と比較すると実施率などからスポーツに関しては成熟している市だと捉えることができる。スポーツをしている人にアプローチするのか、まったくしていない人にアプローチしていくのかによっても変わってくるため、ある程度絞ったほうがよい。アンケートでは実施率もカテゴリーに分けて聞いている。週に1回以上の人を増やすのか、健康向上に繋がる週3回以上の人を増やすのかで内容も変わってくる。</p> <p>資料2の17ページ「(3) スポーツ推進に向けた課題の整理」で、「生涯現役の健康づくりのための運動・スポーツの普及」は、どこに焦点を当てるかによって結果が変わってくると思う。実施率について、50代を機に週1回の人が減っていくが、週2、週3、週5回は増加している。つまり50代を境にスポーツ実施率は高まっていると捉えることもできる。どこに注目して議論をするか決まっていなければ、違う結論になり得る。目標が週1回以上ということであれば、実施していない人を取り込むという目標となる。しかしターゲットが変われば違う目標になるのではないかと思う。</p>
事務局	市の他の計画では週2回の運動実施率が望ましいと書いており、スポーツ推進計画では国に合わせて週1回の方向で考えていた。ターゲットをどこに絞るかについては、吹田市としては底辺を広げることを第1に考えている。そこから運動実施率を上げていくという考えであるため、週1、2回としてもいいのではないかと思う。週3については議論の余地があると思われる。
委員長	国の第3期計画の目標ではスポーツ実施率70%となっており、方向性としては実施者を増やすという考えである。市としては、どこか特定の層にフォーカスしていくというより幅広くという考えか。
事務局	子育て世代の運動実施率が低くなっている。そこに向けて親子で参加できるものや、勤労者世代が参加できるようなものを打ち出していくことも必要だと感じている。

事務局	<p>【議題（２）スポーツ推進計画 基本目標（案）について】 <資料に基づき説明></p>
C 委員	<p>20 年以上吹田市に住んで感じた、スポーツ施設についての要望である。基本目標 1 について、「気軽に」という点が今の吹田市にとっては難しいと感じる。陸上の長距離をしているが、総合運動場への交通手段は自転車か車となる。自転車は、吹田の地形的に坂が多く大変である。吹田の中心である吹田駅からだと、交通手段はバスのみで気軽に行くというにはほど遠い。また、陸上以外でボルダリングもしていたが、施設が片山や目俵にあり、こちらも吹田駅から歩いて 15 分から 20 分かかり気軽に行くというには遠い。</p> <p>ボルダリングについては、人気が高まっているとアンケート結果から感じられたが、実施するのに非常にハードルが高い。吹田市の目俵と片山で行っているのはクライミングであり、免許が必要である。半年ほど教室に通い免許を取得しなければ、施設を使うことができない。片山と目俵が 8 メートルの高さの施設で危険なので、このような状況になっている。例えば、8 メートルの施設でも上のほうは使用禁止にして 4 メートルまでの制限を付けるなどすれば、免許がなくても利用できるようになるのではないか。今後、吹田市として力を入れると考えた時に課題の多いスポーツである。</p> <p>基本目標 3 のスポーツを支える人材について、吹田市陸上競技会のボランティアや委員の方の平均年齢が 65 歳以上で定年を迎えた方が多い印象である。ジョイフルランニング教室も開催しているが、18 時スタートなのでお勤めされている方がボランティアに参加するのは厳しいようだ。土日も頻繁に大会が開催されているが、子育て世代の参加が難しいのもあり、必然的に高齢化が進んでしまう。</p>
D 委員	<p>障がい者側の立場から、体育館でこれまでイベントを行ってきたが、具体的に設備面で変えてほしいという声は書かれているのか。</p>
事務局	<p>具体的には書かれていない。</p>
D 委員	<p>車椅子用のトイレの設置義務などはあるのか。</p>
事務局	<p>バリアフリーに関してはある。</p>

D 委員	体育館にはどこも設置してあるのか。
事務局	使いやすさは別にして設置はしている。狭いところもあるため快適に使用できるように、今後見直していかなくてはならない。
D 委員	そのあたりが、第5章の「施設整備の方向性」として整えていく部分にあたるのであろう。 障がい者スポーツはイメージしにくい方も多い。ポッチャなどは重度の方も参加できるということで、徐々に障がい者スポーツとして根付いてきている。ただ、障がいも様々で、身体障がい者もいれば知的障がい者もいる。知的障がい者の方は、障がい者スポーツというより、わかりやすいスポーツに参加したいという方が多い。普段、皆さんがしているようにスポーツに参加したいという思いがある。基本目標1の「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」にあるように、気軽に参加できるようなかたちで組み込んでほしい。
委員長	「誰もが気軽にスポーツに親しめる」の中には、もちろん障がいのある方も含まれている。言葉として「障がい者スポーツ」、「パラスポーツ」というのは明記されていないが、何か御意見はあるか。
D 委員	「パラスポーツ」や「障がい者スポーツ」を想像できている人は少ないのではないかと感じる。記載することで、ある程度のレベルでないと参加しにくいなどハードルが高いと感じる方もいると思う。健常者が普段行っているダンス教室にも気軽に参加できる、というイメージのほうが窓口は広がる。障がい者スポーツという書き方もどうなのか、という人もいる。皆さんのハードルが上がらない書き方で周知できればいいと思う。
委員長	東京オリパラのレガシーといえは、多様性ということがあげられる。障がいのある方、スポーツに親しむ機会がなかった方、女性の方、そういう人を対象にして言葉で示すのも必要かと思ってお伺いした。
E 委員	地域でスポーツに関わっているが、地域の実情がこのアンケート結果に如実に表れている。地域で様々な行事を開催しているが若い方の参加が少ない。基本目標3の「人材の育成」について、先ほど陸連で若い方がいないとのことだったが、地域も同じ状況である。地域でも長年やっている方のほうが地域のことをよく知っている。スポーツ行事についても、若い方よ

<p>F 委員</p>	<p>り高齢の方のほうが地域では参加されている。介護福祉の観点からも、フレイルにならないように健康な体をどこまで維持できるかという点も私たちは担っていると思っている。スポーツの線引きについて意見があったが、地域で支えている人達を身近に見ていても広げるのは難しいと感じる。</p> <p>アンケート結果を見ても、圧倒的にウォーキング・ジョギングが多い。施設に行かなくても気軽にできる運動だということである。女性だから、忙しい、子育て中、とできない要因を考えた時、健康づくりというより健康まちづくりを考えるべきだと思う。ただ、この計画はDXやeスポーツ、施設整備とかなり幅広いため、どこまで盛り込むことができるのかである。</p> <p>市が健康寿命延伸ビジョンの基本方針を作成したように、横の繋がりを持って都市整備で公園やPark-PFIの役割を盛り込むべきである。底辺を広げるのであれば、体育館を整備したり更に作ったりではなく、運動ができる環境を作ることである。子供連れイベントを開催するより、子供と遊べる公園や楽しく歩ける道やおしゃれな食事できる店など、若い主婦が子供と行こうと思える場所を作るほうがよいと思う。</p> <p>北千里でもPark-PFIが始まっており、そこに体育館がある。ニュータウンの中に歩きやすいガンバ大阪のスタジアムもある。そのなかで体育施設の役割は何かあるはずである。例えば、Park-PFIでレストランやカフェを作り、体育館を利用した人が立ち寄ることができる、体育館で何か還元できるようなポイント制度をつくる、などの施策が必要である。そういったことをしなければ、底辺の拡大は難しい。目指す方向性としては行政のまちづくりになると思う。健康医療部で横断的なビジョンが基本方針で作られた中で、そんな議論も必要である。</p> <p>桃山台も横にスポーツグラウンドがある。駐車場をつくるのも反対意見があり、それならテニスコートを利用する方が駐車場も利用できるようにして公園まで足を伸ばすような導線を考えてほしいとの意見があったが、所管が違うとのことだった。若い世代、運動という言葉にとらわれず気が付いたら健康づくりができる、そういう考えを盛り込むべきだと思う。施設整備についても基本はこういったことだと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>南千住の事例もある。こちらは予約が取れない状況である。そういう視点で、連携しながら、という書き方も必要である。</p>

B 委員	F 委員がおっしゃったことは大変重要だと考えている。基本目標3の<施策2>に「民間事業者を含む多様な担い手の確保」と、うかがわせる文言はある。教えてくれる先生を民間に委託するという狭い意味ではなく、産学官民の多くの方と連携し、多様なスポーツ機会を生み出すべきだと思う。
F 委員	現在スポーツ庁が関係しているウォークランプロジェクトに携わっている。産学官民連携でウェアラブル端末を付けるなどして、まちづくりとして奈良県今井町に、スポーツ庁が奈良県立医科大と連携してプロジェクトに取り組んでいる。人生100年時代になり、病気を抱え、薬を飲みながらも運動をすることをメディカルフィットネスといい、スポーツ庁はそこに補助金を出したりもしている。社会が変化してきている中で、運動率や年齢も様々でターゲットを絞るのは難しいが、広く捉えてもらえるといい。
副委員長	基本目標はもう少し積極的な文言でもよいと思う。第3期の国の計画のポイントをタイトルに出しているが、内容は「普及型」で一つ前の計画に近い。ガンバについても4割近くが応援しているというのは吹田市の特徴で、他市では違う結果になる。強みはしっかりと押さえた上で、次は具体的な取り組みを進めるべきである。中野委員がおっしゃったように高齢化はどこも同じで、総合型地域スポーツクラブにとっても課題となっている。新しい人材確保に向けて取り組んでいるが、年代で関わり方が変わってくるはずである。新たに生み出すのではなく、それぞれのライフワークに合わせた関わり方を見出していくべきである。常に関わっている方と当日のみ参加できる方が繋がる場があれば、次世代に活動を繋げることができ次世代育成にもなる。現実に合わせて具体的な取り組みが重要である。
G 委員	先ほどおっしゃっていた産学官民連携について、私自身も3年連続でスポーツ庁のほうで、関西医科大学と阪南市と連携して運動の指導をしている。フレイルの問題もあるので協力できたらと思う。 資料2のスポーツ施設の利用者数の減少について、屋内の施設利用者数は戻っていないのが現状である。特にトレーニング室利用が7～8割程度にとどまる。一方で、テニス、フットサル、サッカーなど屋外施設の利用者が増えている。屋内施設はこれ以上伸びないと割り切り、屋外施設で利用者を増やすというように考えていかなければならない。吹田市は、ノルディックウォーキングの割合が高いので、そのような教室を増やし気軽に運

	<p>動ができるように進めていく必要があると感じた。</p>
H 委員	<p>基本目標3の【ささえる】について、高校生の部活指導については大学生を派遣するなどすれば、年齢の近い方から技術面での指導を受けることができる。また、大学生も指導する経験を得られるという点で Win-Win の関係になる。更に大学生で指導者を目指すという人もでてくる。人材の育成という面では非常に効率がよいと思う。</p>
委員長	<p>部活動の地域移行も目前にある大きな課題である。どう取り組むかについては、混乱期ではあるにせよ注視しておかなくてはいけない。</p>
I 委員	<p>様々な調査があり、私も認識を新たにしたところである。</p> <p>まず基本目標3について。吹田市以外に門真市に社会人野球部、枚方市にバレーチーム、埼玉県熊谷市にラグビーチームがある。その他に福知山で総合型のスポーツ教室などもある。民間への支援については行政と情報交換をすでに始めており、今後、様々な動きがでてくると思われるので、しっかりと考えておくべきだと思う。民間としてもサポートできる部分がでてくると考えている。</p> <p>基本目標4については、F 委員がおっしゃった、まちづくりという視点について賛同する。スタジアム周辺の整備においても開発の余地がある。万博記念公園の駅前のアリーナの話も動いているが、そこが吹田市のアドバンテージとなるような魅力的な取り組みができるとよい。よくある普通の体育館の整備に投資をするより、スタジアムを中心にまちづくりの起爆剤となるような新しい取り組みができれば更に魅力ある都市になる。</p>
B 委員	<p>基本目標1の「全ての市民」に含まれていると思うが、このあたりは大学もあり留学生も多い。彼らも気軽に参加できるようにすることは、国際交流という意味も含め非常に重要である。目標のどこかにそういったことも盛り込んでいただきたい。</p>
委員長	<p>ガンバ大阪がある、大学がたくさんあるということも吹田市の特徴である。</p>
事務局	<p>【議題（3）その他】</p> <p>< 次回の開催予定、今後の進め方等について事務連絡 ></p>

委員長	本日はスポーツについてのまちづくりの視点、施設や種目へのアクセスについて、スポーツをどのように定義するのか、誰を対象に何を提供するかという点や、施設整備の観点では、今後施設の利用者は戻ってくるのかなど、様々な御意見をいただいた。10年後のまちづくりを見据えてこの計画を作っていきたいと思う。
-----	---